

性同一性障害、小中高600人超 学校が服など配慮6割

岡田昇 2014年6月14日07時46分

シェア 109 ツイート 193 ブックマーク 7 メール 印刷

性同一性障害の子どもへの配慮内容



文部科学省調べ。複数回答

性同一性障害の子どもへの配慮内容

る。

606人の内訳は、小学校93人、中学校110人、高校403人。戸籍上の性別では、女性366人、男性が237人、無回答が3人。医療機関を受診したのは257人で、そのうち性同一性障害と診断された子どもは165人いた。周囲に対し、「秘匿している」「(親しい友人など)ごく一部を除いて秘匿している」のは計348人。

心の性と、体の性が一致しない性同一性障害とみられる児童・生徒は全国の小中高校で少なくとも606人にのぼり、そのうち学校が特別な配慮をしているのは約6割の377人。そんな調査結果を文部科学省が13日付で発表した。

性同一性障害の子どもへの対応の充実を目指し、現状を把握するため初めて調べた。昨年4～12月に国公私立の小中高校と特別支援学校に在籍した約1370万人を対象に実施。学校が把握する事例に限られ、本人が望まない場合は回答を求めなかったため、文科省は「性同一性障害とみられる子の一部と考えている」としている。

性同一性障害 小中高606人

文科省初調査 学校側、6割は服装など配慮

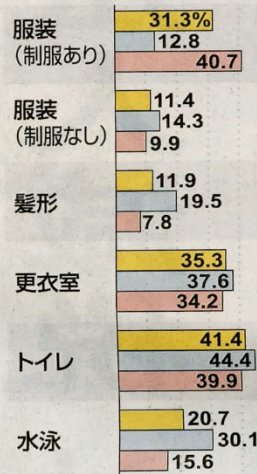
全国の小中高高校で、心と体の性が一致しない「性同一性障害」を抱え、学校に相談している児童生徒が少なくとも606人いることが13日、文科科学省の調査で分かった。うち約6割には学校側が服装などで特別な配慮をしているが、不登校や自傷行為など深刻なケースも一部にみられ、文科省は相談体制の充実に向けた資料を今年度中に作成し、各校に配布する方針。

(27面に関連記事)

文科省が性同一性障害の調査を行うのは今回が初めて。国公私立の小中高校などに対し、昨年4～12月の間で学校が把握している相談事例と対応状況を調べ

性同一性障害に対する学校の特別な配慮

■全体 □戸籍上男 ■戸籍上女



た。対象者は約1370万人。本人が望まない場合は回答を求めず、相談していないケースもあることから、文科省では「ほかにも多数いるとみられる」としている。

調査によると、本人や保護者が性別への違和感などを学校に相談していた児童生徒数は606人で、戸籍上の性別が男性なのは237人、女性は366人、無回答は3人。

年齢別にみると、小学1～2年が26人、3～4年27人、5～6年40人、中学110人、高校403人で、高学年ほど増加傾向にあることが分かった。

一方、学校が特別な配慮をしているのは62%にあたり

る377人。内容を具体的に複数選択で聞いたところ、自認する性別の制服を認めるなど服装への配慮が43%、トイレへの配慮が41%、着替えに保健室の使用を認めるなど更衣室への配慮が35%などが多かった。

このほか児童生徒の状況については「周囲も受け入れ、問題なく生活している」との回答がある一方、「不登校状態となり、保健室に通うことが多い」「気持ちの浮き沈みがあり、自傷行為をしている」との記述もあり、深刻な実態も浮かび上がった。



性同一性障害 自分が考える心理的な性別

と、肉体的な性別が一致しない障害。肉体的な性別に不快感を持ち、心理的な性別で日常生活を送ることを望む。平成16年施行の性同一性障害特例法により、成人の場合、一定の要件を満たせば家裁で戸籍の性別変更の審判を受けられる。文科科学省の今回の調査では、診断の有無にかかわらず、児童生徒本人の認識に基づいて判断した。